

# 令和6年度第1回春日井市図書館協議会議事録

1 開催日時 令和6年7月26日（金）午後2時から

2 開催場所 春日井市役所6階 研修室

3 出席者 [委員]

春日井市小中学校校長会	佐藤 幸子
春日井市小中学校校長会	北原 千穂
子ども会育成連絡協議会	佐藤 裕子
生涯学習審議会	長谷川 昌信
図書館ボランティア	菊池 美枝子
図書館ボランティア	藤野 啓子
小中学校PTA連絡協議会	神戸 研人
中部大学	高木 秀明
中部大学	澤田 裕之
[事務局]	
教育長	兒島 靖
図書館長	四ツ倉 光一
図書館長補佐	渡辺 友
図書館主査	高木 俊成
図書館主査	石原 圭一朗
図書館主任	服部 立宏
高蔵寺まなびと交流センター図書館長	伊藤 なつみ

4 議題

- (1) 令和5年度図書館事業報告について
- (2) 令和6年度図書館事業計画について
- (3) 第4次春日井市子ども読書活動推進計画の施策事業の実施状況について
- (4) その他

5 会議資料

資料1 令和5年度図書館事業報告について

資料2 令和6年度図書館事業計画について

資料3 第4次春日井市子ども読書活動推進計画の施策事業の実施状況について

参考資料1 春日井市図書館条例（図書館協議会関係抜粋）

その他1 令和6年度春日井市図書館協議会委員名簿

その他2 座席表

## 6 議事内容

議事に先立ち、会長に佐藤幸子委員及び副会長に高木委員を選出した。

### (1) 令和5年度図書館事業報告について

【事務局】 資料1に基づき説明した。

【高木委員】 8ページの利用状況の推移の受入数と1ページの2資料の整備の購入数の差異は何か。

【事務局】 受入数と購入数の差は、寄贈本の受入れがあるためである。

【高木委員】 令和5年度の除籍数は何冊か。

【事務局】 8ページ「利用状況の推移」の3段目に記載されてあるとおり、令和5年度の除籍数は、28,100冊である。

【高木委員】 令和5年の登録人数の26,373人については、近隣の市町村と比べてどのような評価をされているか。また、登録者数を増やすような施策を行っているか。

【事務局】 図書館を新設すると登録者数が増えるという話を聞いている。実際に新設された小牧市や江南市は増えたと聞いている。コロナ禍で減少したものの、現在は少しずつ増えているので、今後も増えるような施策を進めていく。

【高木委員】 春日井市図書館は、他の図書館にも劣らず素晴らしい図書館だと思う。

### (2) 令和6年度図書館事業計画について

【事務局】 会議資料2に基づき説明した。

【長谷川委員】 2ページ(1)の読書手帳の配付について、令和5年度は全児童の配付は出来なかったとの話だが、令和6年度はどのような予定か。

【事務局】 令和6年度についても、おためし版を各学校2学年に冊数の希望を聞いて配付する予定。

【佐藤会長】 2ページ(10)図書館読み聞かせボランティア養成講座について、どのくらい参加者がいるのか。また、受講後はどのような活動をしているか。

【事務局】 令和5年度は定員10名のところ7名の参加があった。全3回の講座であり、2回目までは講師が講義した。3回目の講座では、図書館職員がボランティア活動の紹介、ボランティア団体の説明をした。その後、試用期間を経て、実際に参加していただき、4名が登録された。

【高木委員】 資料の整備について、春日井市図書館は小野道風の関

連の本を集めていると聞いているが、特色あるコレクションをどのように整備されているか。また、貴重な資料等はどこに保存しているか。

【事務局】 4階に道風コーナーを設けている。見やすい資料の配置やポスターを掲示するなど子どもでも楽しめるように改善している。貴重な資料は地下の保存庫で所蔵している。また、図書館の3階に書作品コーナーがあり、市内の書家が書いた作品が借りられる。

【長谷川委員】 TC通信を年6回から4回に減らしたのは、内容を充実させるためか。また、編集に10代の方に携わって頂くことは考えているか。

【事務局】 年6回から年4回に減らしたのは内容の充実を図るため。また、TC通信の中に同年代の春日井高校の図書委員が本を紹介するコーナーがあり、親しみやすく感じると思う。また、TC通信は各高校に配付するとともに、編集への参加も募っている。

【高木委員】 図書館情報学ではヤングアダルトに分類される。東京都墨田区立図書館では、パスファインダーをカラーで印刷したものを配付し、読書人口の底上げを図っている。学生達が資料を編集できる部屋があり、その部屋でクラブ活動のような形で資料作成に携わっている。TC通信はとても良い企画だと思う。

(3) 第4次春日井市子ども読書活動推進計画の施策事業の実施状況について

【事務局】 資料3に基づき説明した。

【藤野委員】 高蔵寺まなびと交流センター図書館とは、グループふじとう図書館のことでよろしいか。

【事務局】 「高蔵寺まなびと交流センター図書館」が市の正式な施設の名称である。「グループふじとう」は愛称で呼ばれている。

【長谷川委員】 中学校で朝読書の機会が増えていると聞いているが、新型コロナウイルスの感染拡大との関係があるか。

【佐藤会長】 小学校はシーズン毎に取り組みが違い、読書については梅雨や秋の時期に取り組む。中学校は季節関係なく朝10分間ぐらい本を黙読しており、感染拡大は関係ないと思う。

【兒島教育長】 平成10年から平成15年頃に、全国一斉に中学校で朝読書が始まった。タイピング練習などの他に学ばなければ

ならないことが増えたため、最近は朝読書をやっていないわけではないが、毎日やっていない学校はある。

【長谷川委員】 教員の働き方改革やタブレットの配付により図書館教育の在り方が変化している。図書館はどのように考えているか。

【事務局】 今年度も市内の学校に赴き、学校の本の修理講習を行うなどの学校連携を進めている。まずは、第4次計画に記載されている家読事業を進めている。

【澤田委員】 家読事業にとっても興味がある。子どもが本を読む習慣は、身近な大人が本に親しんでいると習慣化しやすい。先生が本に親しんでいる学級は、調べ学習なども能動的になっている。本に親しむ大人が周りにいないと、タブレットを渡しても調べ方も分からない。

保護者に対しての読書活動は、子どもが読書に親しむことへのポイントとなる。一昨年、中部大学の学生が本に親しむため読書会を立ち上げた。その学生が教員になったときに学校現場で役立つと考える。保護者にアプローチしていくことは、長い目でみると有効だと思う。

【事務局】 現在、親子で同一のテーマの本を読んでもらえるような展示を実施している。

#### (4) その他について

【事務局】 資料4に基づき説明した。

【神戸委員】 第4次春日井市子ども読書活動推進計画を第2次春日井市生涯学習推進計画に統合することのだが、今までは、子どものみを対象にした計画だったが、大人・高齢者にも対象を広げるのか。

【事務局】 読書活動は、子どもだけに留まらず、生涯に渡って推進する必要がある。生涯学習計画の基本施策には、ライフステージや多様なニーズに合わせた学習活動支援や情報提供、生涯学習施設の充実など図書館の基本理念と合致している。

【高木委員】 これから高齢者は増えるが、現在の読書活動推進計画には、その現状が反映されていない。あらゆる世代に向けた施策を行えば、満足してもらえと思う。

【藤野委員】 サピエ図書館の加入は大変ありがたいと思う。施設工事に伴う臨時休館中は、ボランティア活動は出来ないのか。

【事務局】 文化フォーラム春日井3階・4階の図書館のみ休館し

て、集中的に工事を行う。

【神戸委員】 子ども読書活動推進計画や事業報告の計画事業を見ると、子どもへの読書の推進活動は十分にみてとれるが、中高生になったときの図書館は勉強をする場所というイメージがある中で、計画などにそうした中高生の勉強に対しての取り組みについて記載が見られない。

【事務局】 図書館としては子どもへの「読書」の推進が主な責務である。館内の資料を用いた勉強をすることは想定しているが、持参した宿題や試験勉強については、文化フォーラム春日井2階の会議室などの貸出利用がない場合は学習室として提供している。また、各公民館・ふれあいセンターにはスタディールームがある。

午後3時10分に協議会を終了した。

上記のとおり、令和6年度第1回図書館協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、議長及び出席者1人が署名する。

令和6年9月4日

議長 佐藤 幸子  
署名人 菊池 美枝子